

じどうとしょしつだより

れいわ ねん あきごう
令和3年 秋号

きょうとしちゅうおうとしょかん じどうとしょしつ (でんわ)802-3133
京都市中央図書館 児童図書室

『じどうとしょしつだより』で紹介した本は、児童図書室内の特別コーナーで展示しています。気になる本があったらぜひチェックしてね！



おらせ

9月に予定していた行事（おたのしみ会）はすべて中止になりました。

10月・11月も行事を予定しています。参加には、事前に予約が必要です。くわしい内容が決まったら、図書館のホームページや館内のポスターなどでお知らせします。

便利な『としょかんまるごとファイル』を使いこなそう！

『としょかんまるごとファイル』を知っていますか？

児童図書室に置いてある、「自分でつくる」ファイルです。

表紙もページも、自分の好きなものを選べちゃう！

読んだ本の題名や冊数を記録できるページや、『サバイバルシリーズ』

『かいけつゾロリ』などのシリーズが確認できて読書に使えるページ、

予約のしかた、本の探しかたなど、図書館を便利に使いこなすための

情報がもりだくさん！

この「じどうとしょしつだより」も綴れちゃうよ。

自分だけのファイルを作って、図書館や読書をもっと楽しもう♪



きかくしんこうちゅう
企画進行中！



11月1日は「古典の日」。

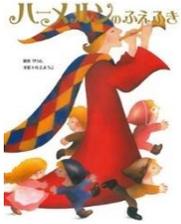
5・7・5のリズムにあわせて、一句詠んでみませんか？

詳細は館内のポスターでご確認ください。みなさんのご参加お待ちしております。



おんがく あき
 ♪ # ♭ ♪ 音楽の秋 ♪ # ♭

『ハーメルンのふえふき』



グリン/原作 いもとようこ/文・絵 金の星社

E
ハ

ねずみがたくさん発生して困っていた町に、一人の男が
 現れます。男は笛をふいてねずみを退治しますが、町
 の人々は約束していたお礼を渡しませんでした。怒った
 男がもう一度笛をふくと…？

『くまの楽器店』



E
ク

安房 直子/作 こみねゆら/絵 小学館

ちょっとふしぎなくまの楽器屋にやってくるのは、小さな
 男の子や、寒がりのうさぎさん、おなかがすいたねずみ
 さんたち。くまさんはどんな楽器を売るのでしょうか。

『四重奏デイズ』



913
ヨコ

横田 明子/作 いわさきしよてん 岩崎書店



友人たちは夢中になれるものがあるのに、長年習っている
 ピアノに身が入らないタカ。家のピアノを親戚に譲ると言
 われ、ようやく本格的に練習を始めますが…？

『星空ロック』



913
ナ

那須田 淳/著 あすなろ書房

14歳の少年レオは、突然一人でドイツ旅行に行くこと
 に。友人の遺言をもとに、ある女性にレコードを届けよ
 うとします。少年の、別れと出会い、音楽の物語。



おんがく
『音楽ってなんだろう? 知れば知るほど楽しくなる』



いけべ しんいちろう ちょへいぼんしゃ
池辺 晋一郎/著 平凡社

760
イ

おんがくは、知れば知るほど面白くなる! 日本を代表する作曲家がたくさんのエピソードとともに、クラシックから合唱まで、音楽の基礎をやさしく面白く伝授します。

たの ずかん
『楽しいオーケストラ図鑑』

とうきょう こうきょうがくだん かんしゅう
東京フィルハーモニー交響楽団/監修

しょうがくかん
小学館



764
タ

オーケストラっていったいくつの楽器があるの? どうやって練習や本番をむかえているの? そんなオーケストラにまつわる質問に答えます。すべての漢字にひらがながふってあるので、難しい漢字があっても大丈夫です。



あか えほん
赤ちゃん絵本

いろ
色やかたちがテーマの
えほん しょうかい
絵本を紹介します。



E
イ

『いろいろばあ』 新井 洋行/作 えほんの杜
ページをめくると、赤や青や黄色の絵の具がいろいろな形になって飛び出します。



E
マ

『まるまるこころ』 得田 之久/文 織茂 恭子/絵 童心社
色んな色のさんかくが、つぎつぎと素敵なものに変身。次はなにになるかな?



E
マ

『まるさんかくぞう』 及川 賢治, 竹内 繭子/作 文溪堂
さんかく, まる, しかく。さんかく, ぞう, まる。ぞう, ふね, さんかく。言葉と色が繰り返される絵本です。

はいく たのしい俳句



俳句ってなあに？

俳句は5音 7音 5音の17音でつくられた、世界でいちばん短い詩。何百年も前から日本で生まれ、今では世界のあちこちで人気があります。俳句には季節を表す「季語」を入れるというルールがあり、同じ17音でつくる川柳とは、つくり方や内容がちがいます。俳句は季節をどんなふう感じたか言葉にする詩といえます。

※標語は文字数の決まりがなく、5・7・5ではないものも。



火の用心
マッチ一本 火事の元

俳句に必要な「季語」。600語以上あり、春・夏・秋・冬・新年の5つに分類されます。季語がたくさん入っている本、「歳時記」があると俳句をつくる時に役立ちます。

おすすめ! 『子どもおもしろ歳時記』 金井 真紀 / 文・絵 理論社



俳句の5・7・5は文字の数ではなく、音の数なので、小さな「や」「ゆ」「よ」は、前の文字とくっついて1音に。小さな「つ」や、のばす棒「ー」は1音になります。

【例】 べんきょう (4音)、マッチ・プール (3音)

俳句ができるまで

和歌

日本でいちばん初めにできた詩の形が「和歌」です。

連歌

室町時代になると、和歌の上の句 (5・7・5) と下の句 (7・7) を、別の人が詠む「連歌」が流行します。

俳諧

おもに身分の高い人たちが優美な物事を詠んで楽しんでた連歌に対し、気軽に楽しめる冗談や遊び心のある連歌を「俳諧の連歌」と呼び、やがて「俳諧」とだけ呼ばれるように。江戸時代のなかば頃に、松尾芭蕉が俳諧を芸術として高め、完成させます。



連句そして俳句へ

5・7・5, 7・7, 5・7・5...と続けていく長い俳諧を「連句」と呼んでいましたが、「連句」のいちばんはじめの句である「発句」は特に大切にされ「発句」だけが詠まれることも出てきました。明治時代に正岡子規が「発句」を「俳句」と言うようになり、この呼び方が広まりました。

はいく

参考にした本

『子ども俳句塾』 大高 翔 / 著 明治書院

『絵で見てわかるはじめての古典 10巻』 学研プラス

